



経口避妊薬(ピル)について

稲城市保健センター

☎378-3421

皆さんは避妊についてどの程度理解されていますか。数ある避妊法の中で最もメジャーなのは、男性側のコンドーム使用です。コンドームは、安価で入手しやすく、性感染症の予防にもなる、すぐれた避妊法です。欠点は、コンドームの破損などによる避妊の失敗の頻度がやや高いことや、

男性側の理解、協力が必要なことです。

これに対して、1960年代にアメリカで開発され欧米を中心に普及してきたのが、経口避妊薬です。これは、女性が女性ホルモンの合剤を内服することで子宮内膜(受精卵が着床する部位)を薄くしたり、卵巣からの排卵を抑制することにより避妊効果を発揮するとされ、コンドームに比べても避妊の効果が高いとされます。また、女性が主体的に避妊に関わることができ、女性ホルモンの含有量は時代とともに低用量化し、安全性が高められました。低用量ピルは優れた薬ですが、欠点として毎日の内服が必要など、稀ですが血栓症とい

う重篤な副作用が生じる可能性が高まることなどがあります。ただし、一般に言われるような「太る」「がんになる」「なんか怖い薬」といったイメージは必ずしも正しい認識ではありません。近年は生理痛の軽減という「副作用」を利用して、月経困難症や子宮内膜症の患者さんに経口避妊薬と同等の成分の薬が健康保険で処方されることもあります。

一方、避妊の失敗や無防備な性行為があり妊娠の可能性がある場合に、緊急的に女性ホルモンを内服することで妊娠を回避しようとする避妊法(いわゆるモーニングアフターピル)があります。従来、中用量の女性ホルモンの内服

が頻用されましたが、平成23年に緊急避妊を適応とした薬が登場しました。ただし妊娠回避効果はもちろん100%ではありません。

経口避妊薬の最大のメリットは、冒頭で書いたように女性が主体的に避妊に関わることができることだと思えます。予期せぬ妊娠で人工妊娠中絶手術を受けることは、母体の負担などから好ましくないのは当然のことです。ぜひ経口避妊薬のことをよく理解して、内服を希望される方は婦人科を受診し医師と相談するとういでしょう。

稲城市医師会

櫻井 信行